

《履修上の留意事項》体験学習の際には身なり、服装などに注意すること。
 学外の方々（模擬患者）が参加するので、失礼のないよう注意すること。
 授業の性質上、授業風景の写真、動画等の撮影を行うことがある。

《担当者名》教授 / 長澤 敏行nagasawa@ 教授 / 安彦 善裕yoshi-ab@ 教授 / 石井 久淑hisayosh@
 教授 / 伊藤 修一shu@ 教授 / 越野 寿koshino@ 教授 / 齊藤 正人msaitoh@
 教授 / 塚越 博史hiro@ 教授 / 永易 裕樹nagayasu@ 教授 / 古市 保志furuichi@
 教授 / 三浦 宏子hmiura@ 准教授 / 豊下 祥史toyosita@ 准教授 / 松岡 紘史mazun@
 非常勤講師 / 千葉 逸朗

《ファシリテータ》

泉川 昌宣 植原 治 加藤 幸紀 門 貴司 川西 克弥 菅 悠希 倉重 圭史 榊原さや夏
 佐藤 惇 渋谷 徹 清水 伸太郎 高井 理衣 建部 廣明 豊下 祥史 中尾 友也 中谷 温紀
 仲西 康裕 根津 顕弘 根津 尚史 本家 寿洋 本家 寿洋 松岡 紘史 南田 康人 蓑輪 映里佳
 宮川 博史 六車 武史 村田 幸枝 油井 知雄 吉田 光希 吉田 晋

《教育資源》

模擬患者（SP）

【概要】

授業の目的は、現代社会における医療の問題点について考え、新しい医療人をめざして、単なる知識、技術の伝達だけでなく、それらに裏付けされたコミュニケーション能力の育成、態度教育、倫理教育、多職種連携教育を行うことである。3年次の医療コミュニケーションの授業を発展させ、よりリアリティーのある授業を行う。学生がグローバルスタンダードと比較して遜色ない、問題解決能力のある臨床医となることをめざす。

【学修目標】

一般目標

国民のニーズに応える歯科医療者を育成する。

行動目標

- 患者中心の医療コミュニケーションを実践する。
- SOAPに基づく診療録を記載する。
- Bio-Psycho-Socialモデルを理解する。
- 多職種連携を体験し、専門家の立場としてコミュニケーションを行う。

到達目標

各分野で学んできた歯科医療、口腔保健、行動科学の知識を統合し、体験学習を行うことにより、臨床の現場での「パフォーマンス力」を養う。模擬患者（SP）を前にして、医療情報をSOAPに基づいて整理し、行動科学を生かした医療コミュニケーションを行う。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1) 2	歯科医療行動科学とは	患者中心の歯科医療を理解する。 POSとSOAPを理解する。 歯科医療に必須な行動科学を理解する。 Bio-Psycho-Socialモデルを理解する。 A-1-2)- 、 A-4-1)- 、 A-4-2)-	長澤敏行 松岡紘史
3) 4	基本的臨床技能：保存	保存治療に必要な基礎医学を理解する。 保存治療の準備、患者導入、医療面接、基本的手技及び後片付けを行う。 保存治療に必要な行動科学を理解する。 A-1-2)- 、 A-4-1)- 、 A-4-2)-	解剖 保存
5)	基本的臨床技能：補綴	補綴治療に必要な基礎医学を理解する。 補綴治療の準備、患者導入、医療面接、基本的手技	理工 補綴

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
6		及び後片付けを行う。 技工指示書を記載する 補綴治療に必要な行動科学を理解する。 A-1-2)- 、 A-4-1)- 、 A-4-2)-	
7) 8	基本的臨床技能：口腔外科	口腔外科治療に必要な基礎医学を理解する。 口腔外科治療の準備、患者導入、医療面接、基本的手技及び後片付けを行う。 口腔外科治療に必要な行動科学を理解する。 A-1-2)- 、 A-4-1)- 、 A-4-2)-	病理 口腔外科
9) 10	模擬患者実習：説明・指導	口腔衛生指導に必要な基礎医学を理解する 口腔衛生指導の準備、患者導入、医療面接、基本的手技及び後片付けを行う。 衛生実地指導書を記載する 口腔衛生指導に必要な行動科学を理解する。 A-1-2)- 、 A-4-1)- 、 A-4-2)-	薬理 微生物 衛生 小児 矯正 保存
11) 12	模擬患者実習：説明・指導	食事指導に必要な基礎医学を理解する 食事指導の準備、患者導入、医療面接、基本的手技及び後片付けを行う。 食事、摂食・嚥下機能を評価する 食事指導に必要な行動科学を理解する。 A-1-2)- 、 A-4-1)- 、 A-4-2)- 、 A-5-1)-	生化 生理 衛生 小児 矯正 補綴 1 高齢者
13) 16	模擬患者実習：医療面接	高齢者・有病者の医療面接。 A-1-2)- 、 A-4-1)- 、 A-4-2)-	全担当者 ファシリテータ

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

各講義又は実習終了後にレポートを課す（90点）。

SPを活用した医療面接の際に、ファシリテータがOSCEに準じた評価を行う（10点）

SPから直接フィードバックを受ける。

【教科書】

「はじめての医療面接」 斎藤 清二 著 医学書院
共用試験ガイドブック

【参考書】

歯科医療面接アートとサイエンス 伊藤孝訓 編 砂書房
EQ 心の鍛え方 高山 直 著 東洋経済新報社
話せる医療者 佐伯晴子、日下隼人 著 医学書院
診療録と重要な医療文書の書き方 山澤いく宏 著 エルゼビアジャパン

【学修の準備】

予習として、参考書の次講義にかかわる部分を読んでおく。（80分）

復習として、疑問点や理解がしにくかったところを、自分で学習する。（80分）

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2、「患者中心の医療」を提供するために必要な高い倫理観、他者を思いやる豊かな人間性および優れたコミュニケーション能力を身につけている（プロフェSSIONナリズムとコミュニケーション能力）。

【実務経験】

歯科治療の指導者全員が歯科医師

【実務経験を活かした教育内容】

歯科医師としての実務経験を活かし、コミュニケーション能力の育成、態度教育、倫理教育、多職種連携教育を行っている。